

## 中銀カプセルタワービルのカプセルA908が 和歌山県立近代美術館で展示へ



①中銀カプセルタワービルのカプセル A908 が和歌山県立近代美術館で展示へ



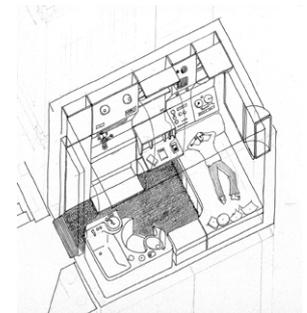
②中銀カプセルタワービル

中銀（なかぎん）カプセルタワービルは、1972年に竣工した、建築家黒川紀章（1934-2007）の代表作のひとつです。新陳代謝する建築＝メタボリズム運動の最若手の建築家として活躍した黒川の、建築史に残る代表作です。

建物は約10㎡のスペースに人間が生活する最小限の機能を詰め込んだ「カプセル」140個から構成され、カプセルを取り外して移動させたり交換したりすることで新陳代謝する建築物というユニークな思想が体现されました。

しかしカプセルは一度も交換されることがないまま50年を経て、2022年、老朽化に新型コロナウイルスのパンデミックが追い打ちとなり、惜しまれつつも解体されました。

オーナーと住人を中心メンバーとする「中銀カプセルタワービル保存・再生プロジェクト」により23個が救出され、黒川紀章建築都市設計事務所監修のもと、保存再生が行われました。できるだけオリジナルに近い形に再生される展示用が14個、その他の活用が可能なスケルトンタイプが9個で、和歌山県立近代美術館には2023年8月24日、展示用A908が到着しました。



③設計時イメージ



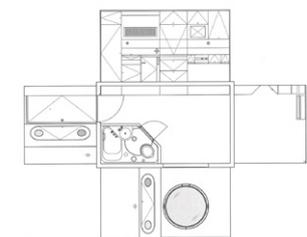
④解体作業中



⑤再生中のカプセル



⑥カプセル内部（A908ではありません） 撮影：山田新治郎



⑦カプセル平面図および展開図（『中銀カプセルタワービル 最後の記録』より）

掲載用画像については広報担当にお問合わせください。文字のせ、トリミング等をご遠慮ください。



⑧美術館に到着



⑨展示作業中

和歌山県立近代美術館・博物館は1994年に竣工した黒川紀章の作品です。1963年に和歌山城内で開館した和歌山県立美術館を前身とし、1970年に日本で5番目の近代美術館として開館。23年余りを経て展示・保存環境を拡充させて現在の建物に移転しました。コレクションは明治期以降の和歌山ゆかりの作家による作品を中心として、創作版画、関西の戦後美術などへその範囲を広げ、現在では海外の作家も含め、総数1万点を超えるユニークなコレクションを形成しています。

黒川は1970年代の「メタボリズム」から「共生」へとその思想を展開させました。和歌山県立近代美術館・博物館では和歌山城と対峙する緑豊かなロケーションを活かし、歴史や自然との「共生」を体現しています。このたびの展示により、黒川紀章の原点が詰まったカプセルを、1990年代半ばの黒川建築で体感していただける、あらたな場が生まれることとなります。(1982年に黒川紀章設計により開館した埼玉県立近代美術館では当時モデルルームとして作られたプロトタイプが設置されています) サンフランシスコ近代美術館が世界に先駆けてカプセルの取得を6月に発表し、話題になっていますが、今回はそれに続いて日本の美術館としては最初、黒川紀章設計の美術館としては唯一の展示です。当面は敷地内に展示したカプセルの外観をご覧ください。今後はあらためて内部公開の機会も設ける予定です。ぜひご期待ください。



⑩和歌山県立近代美術館・博物館外観



⑪和歌山県立近代美術館外観



⑫美術館アプローチプラザに展示



⑬カプセル内部から撮影

## お問い合わせ先

和歌山県立近代美術館  
学芸担当：井上 芳子 広報担当：村井

〒640-8137 和歌山県和歌山市吹上1-4-14  
T E L : 073-436-8690 F A X : 073-436-1337  
E-MAIL : [press@momaw.jp](mailto:press@momaw.jp) W E B : <https://www.momaw.jp>



WEB



Facebook



Twitter



Instagram